

令和4年度 コンテナ苗の安定需給協定における主な提案内容等

協定者 (所在市町村)	主な提案内容等
(有)谷口精光園 (北斗市)	<ul style="list-style-type: none"> ・生産工程に合わせた圃場の整備及び機械や車両の導入により、限られた人員で効率的な作業を実施する。 ・生分解性コンテナを使用することで除草や選苗等の作業の効率化を図る。 ・トマツは大きめの規格の苗木を生産することで植栽後下刈り回数の削減が期待される。 ・セルトレイの使用や育苗環境の改善等により、トマツ及びカラマツの育苗期間短縮に向けた試験を行う。 ・溶出期間の異なる3タイプの緩効性肥料及び錠剤タイプを配合した培土を使用することで均一な生育が期待される。
(有) 竹内山林緑化農園 (美瑛町)	<ul style="list-style-type: none"> ・最新式のグリーンハウスを建設したため、生産体制を確立し効率的な生産システムを構築する。 ・自走式灌水機を導入し、利便性が高く効率的で節水に繋がるため、灌水のコスト削減が図られる。 ・道北地域特有の凍霜害を防ぐため寒冷紗等の設備を整備し、苗木の品質を確保する。 ・山行苗木の残苗を有効活用することで1号苗規格以上の大苗を試行的に出荷し、植栽後の下刈り回数の削減に資する取組とする。
(有)石田農園 (長沼町)	<ul style="list-style-type: none"> ・設備や施設の拡充及び生産工程に即した圃場整備により、作業の簡略化・効率化に努めコストの削減を図る。 ・育苗期間において適期に適切な肥料を活用し有効的な施肥管理を実施することで、植栽初期の成長を促進し下刈り回数の削減を図る。 ・培土の価格高騰を契機として北海道産資材への切り替えや用土試験等に取り組む。 ・出荷時期や苗木規格等について造林事業者との意見交換を踏まえた生産・出荷方法の改善を行い、造林の効率化・軽労化に貢献する。
安藤山林緑化(株) (中富良野町)	<ul style="list-style-type: none"> ・灌水設備や自動温度管理設備が備わるハウスの増設により、増産体制を確立し効率的で計画的な増産を見込む。 ・育苗段階において、コンテナ資材を有効利用することにより、苗木供給時の歩留まりを高める。 ・カラマツについて、緩効性肥料の効果的な使用により植栽後の初期成長を促進し下刈り回数の削減に貢献する苗木の生産に努める。 ・冷蔵施設を使用した通年出荷の技術を活用し、夏期においても良質な苗木を出荷できるよう品質管理に取り組む。
佐々木産業(有) (遠軽町)	<ul style="list-style-type: none"> ・生分解性の不織布を根鉢に施用し、出荷時の根崩れ防止を図るとともに、造林の植付作業の効率化に貢献する。 ・自社生産のピートモスを本格導入し、生産原価の抑制によるコスト削減を図る。 ・早害被害に対応するため、気象状況に合わせた遮光ネットを利用し品質の確保を図る。 ・クリーンラーチは、病害発生の防止や発根率の上昇、挿し穂数の向上などにより得苗率を高める。

令和4年度 コンテナ苗の安定需給協定における主な提案内容等

協定者 (所在市町村)	主な提案内容等
北振種苗(有) (雄武町)	<ul style="list-style-type: none"> ・樹種ごとに肥効が異なる複数種の緩効性肥料を混合した施用により下刈回数の削減が見込まれる。 ・カラマツについて、育苗期間を2年間から1年間に短縮する技術開発に取り組む。 ・クリーンラーチについて、台木の育苗時期の調整や挿穂技術の確立、ハウス内の育苗環境の調整等により増産し、夏期出荷苗木の安定供給を図る。 ・生分解性不織布コンテナの使用により生育環境が管理しやすく得苗率を上げるとともに出荷作業が効率化される。また、複数の生分解性コンテナを利用し比較することで、より根系成長が優れているコンテナを検証する。
(有)岸苗畑 (滝上町)	<ul style="list-style-type: none"> ・温床複層エアハウス建設により、トマツは3年間、クリーンラーチは1年間で出荷できるよう取り組む。 ・コンベアの導入により、コンテナへの移植作業が効率化され一日あたりの作業量を増やすことができる。 ・トマツコンテナ苗に針葉樹おが屑を混合した培地を使用した育苗試験を実施する。 ・300ccコンテナでのクリーンラーチコンテナ苗の出荷により植栽後の下刈り回数削減の可能性を検証する。 ・緩効性肥料と化成肥料の混合から溶出期間の異なる3種類の緩効性肥料の混合培土の使用を試行する。
(有)大坂林業 (幕別町)	<ul style="list-style-type: none"> ・トマツの育苗施設に遮光ネットや灌水設備等を整備したため、生産量の増大と歩留まりの向上が見込まれる。 ・低温庫に段ボール箱で貯蔵することで資材等を効率的に利用でき、出荷作業時の運搬も軽労化される。 ・低温庫の活用により、春期に休眠苗を出荷し活着率の向上を目指す。 ・令和4年度「新しい林業」経営モデル実証事業に採択され、植付作業の機械化による造林の軽労化・省力化に取り組む。また、造林・保育の効率化により森林資源の循環利用が促進され、苗木需要の増大が期待される。